

令和3年度 事業報告

自 令和 3年 4月 1日

至 令和 4年 3月 31日

社会福祉法人明和町社会福祉協議会

目 次

I. 令和3年度社会福祉事業報告

1. 法人運営事業

- 1-①. 理事会
- 1-②. 評議員会
- 1-③. 評議員選任・解任委員会
- 1-④. 主な社協事業の状況
- 1-⑤. 職場内会議・研修

2. 社会福祉事業の普及啓発

- 2-①. 地域福祉（活動）計画の推進
- 2-②. 地区福祉委員会の活動助成（自治会長・民生児童委員）
- 2-③. ひとり暮らし高齢者・高齢者世帯の交流（おでかけ交流会）
- 2-④. ひとり暮らし高齢者・高齢者世帯等への歳末見舞い
- 2-⑤. 広報誌の発行
- 2-⑥. 社協ふれあい祭りの実施
- 2-⑦. 明和町社会福祉協議会会長表彰

3. 各種運動の推進・寄附金

- 3-①. 日本赤十字社募金運動
- 3-②. 社協会員増強月間
- 3-③. 赤い羽根共同募金運動
- 3-④. 歳末たすけあい運動
- 3-⑤. 寄附金

4. 福祉用具等の貸出に関する事業

- 4-①. 福祉機器等の貸出（ベッド・車いす）
- 4-②. バザー用品等の貸出
- 4-③. 祭壇の貸出事業（祭壇・天幕・鯨幕）
- 4-④. 地域コミュニティー備品貸出事業

5. 地域支え合い体制づくり事業

- 5-①. ひとり暮らし高齢者・高齢者世帯等の実態調査事業
- 5-②. 明和町サロン支援事業（旧いきいきサロン支援事業）
- 5-③. 介護支援ボランティア活動推進事業（高齢者有償ボランティア活動ポイント支援事業）
- 5-④. めいわサポーター【めいサポ】活動推進事業
- 5-⑤. 配食サービス事業

- 5-⑥. 生活支援サポーター養成事業
(高齢者有償ボランティア活動者・めいわサポーター【めいサポ】担い手養成事業)
 - 5-⑦. 災害ボランティアの育成
 - 5-⑧. 明和学びの里運営事業
 - 5-⑨. 支援対象児童等見守り強化事業(旧子ども見守り支援事業)
 - 5-⑩. OBENTO PROJECT 事業
6. 介護者支援に関する事業
- 6-①. 家族介護者支援対策事業(低所得者紙おむつ券給付事業)
 - 6-②. 寝たきり高齢者等紙おむつ券給付
 - 6-③. 重度障がい者日常生活用品(紙おむつ券)給付
 - 6-④. 家族介護教室(介護者健康教室)
7. 暮らしの相談・支援事業
- 7-①. 福祉なんでも相談(社協の総合相談)
 - 7-②. コミュニティソーシャルワーカー(生活支援コーディネーター)の配置
 - 7-③. 成年後見制度に関する事業
 - 7-④. 日常生活自立支援事業(権利擁護)
 - 7-⑤. 生活困窮者自立支援事業
 - 7-⑥. みえ福祉の「わ」創造事業
 - 7-⑦. 生活福祉資金の貸付
 - 7-⑧. 地域福祉金庫の貸付
8. 福祉教育に関する事業
- 8-①. UMOUプロジェクト
 - 8-②. 福祉協力校(各小中学校への福祉活動補助)
 - 8-③. 福祉体験教室
 - 8-④. ボランティア・サマースクール
9. ボランティアセンター運営事業
10. 一般介護予防事業
- 10-①. えんがわ教室
 - 10-②. 筋力脳力あつぷ教室
11. 地域生活支援事業(障害者総合支援法)
- 11-①. 手話奉仕員養成研修事業

Ⅱ. 令和3年度各事業利用実績

1. 居宅介護支援事業プラン作成実績
2. 高齢者通所介護事業利用実績
3. 障がい者福祉サービス事業（ありんこ）利用実績
4. 地域活動支援センター事業利用実績
5. 指定特定相談支援事業所サービス等利用実績

令和3年度社会福祉法人明和町社会福祉協議会

事業報告

I. 令和3年度社会福祉事業報告

1. 法人運営事業

1-①. 理事会

開催日	議案・承認
令和3年 5月19日	<p>第1回（書面による決議）</p> <p>① 専決処分した事項の承認について 令和2年度社会福祉法人明和町社会福祉協議会第4号収支補正予算</p> <p>② 令和2年度社会福祉法人明和町社会福祉協議会事業報告について</p> <p>③ 令和2年度社会福祉法人明和町社会福祉協議会収支決算認定について</p> <p>④ 社会福祉法人明和町社会福祉協議会臨時職員等就業規程の一部改正について</p> <p>⑤ 令和3年度社会福祉法人明和町社会福祉協議会第1回評議員会の開催について</p> <p>⑥ 社会福祉法人明和町社会福祉協議会評議員選任・解任委員の選任について</p> <p>⑦ 社会福祉法人明和町社会福祉協議会評議員選任候補者の推薦及び、評議員選任・解任委員会の招集について</p> <p>⑧ 専決処分した事項の承認について 令和3年度社会福祉法人明和町社会福祉協議会第1号収支補正予算</p> <p>決議があったとみなされた日 令和3年5月28日</p>
令和3年 6月22日	<p>第2回</p> <p>① 社会福祉法人明和町社会福祉協議会 会長、副会長の選任について</p> <p>② 障がい者グループホーム建設について</p> <p>③ 令和3年度社会福祉法人明和町社会福祉協議会第2回評議員会の開催について</p>
令和3年 12月7日	<p>第3回（書面による決議）</p> <p>① 障がい者グループホーム建設に係る進捗状況</p> <p>② 専決処分した事項の承認について 令和3年度社会福祉法人明和町社会福祉協議会第2号収支補正予算</p> <p>③ 成年後見サポートセンター事業について</p> <p>④ 法人後見業務の実施について</p> <p>⑤ 社会福祉法人明和町社会福祉協議会定款の一部改正について</p> <p>⑥ 令和3年度社会福祉法人明和町社会福祉協議会第3回評議員会の開催について</p> <p>決議があったとみなされた日 令和3年12月20日</p>

令和 4年 3月15日	<p>第4回</p> <p>① 障がい者グループホーム開所に係る進捗状況</p> <p>② 社会福祉法人明和町社会福祉協議会重要人事について</p> <p>③ 社会福祉法人明和町社会福祉協議会評議員選任・解任委員の選任について</p> <p>④ 社会福祉法人明和町社会福祉協議会職員就業規程の一部改正について</p> <p>⑤ 社会福祉法人明和町社会福祉協議会職員給与規程の一部改正について</p> <p>⑥ 社会福祉法人明和町社会福祉協議会臨時職員等就業規程の一部改正について</p>
----------------	---

1-②. 評議員会

開催日	議案・承認
令和 3年 6月 1日	<p>第1回（書面による決議）</p> <p>① 専決処分した事項の承認について 令和2年度社会福祉法人明和町社会福祉協議会第4号収支補正予算</p> <p>② 令和2年度社会福祉法人明和町社会福祉協議会事業報告について</p> <p>③ 令和2年度社会福祉法人明和町社会福祉協議会収支決算認定について</p> <p>④ 社会福祉法人明和町社会福祉協議会臨時職員等就業規程の一部改正について</p> <p>⑤ 社会福祉法人明和町社会福祉協議会理事及び監事の選任について</p> <p>⑥ 専決処分した事項の承認について 令和3年度社会福祉法人明和町社会福祉協議会第1号収支補正予算</p> <p>決議があったとみなされた日 令和3年6月22日</p>
令和 3年 6月22日	<p>第2回（書面による決議）</p> <p>① 障がい者グループホーム建設について</p> <p>決議があったとみなされた日 令和3年7月2日</p>
令和 3年 12月20日	<p>第3回（書面による決議）</p> <p>① 障がい者グループホーム建設に係る進捗状況</p> <p>② 専決処分した事項の承認について 令和3年度社会福祉法人明和町社会福祉協議会第2号収支補正予算</p> <p>③ 成年後見サポートセンター事業について</p> <p>④ 法人後見業務の実施について</p> <p>⑤ 社会福祉法人明和町社会福祉協議会定款の一部改正について</p> <p>決議があったとみなされた日 令和4年1月7日</p>

1-③. 評議員選任・解任委員会

開催日	議案・承認
令和 3年 6月22日	<p>第1回</p> <p>① 社会福祉法人明和町社会福祉協議会評議員の選任について</p>

1-④. 主な社協事業の状況

開催日	事 項	開催場所
令和 3年		
5月1日～	日本赤十字社社資募集期間	明和町内
5月31日		
5月 8日	UMOU（資源）回収	上御糸小学校
9日	UMOU（資源）回収	齋宮小学校
17日	監事監査	明和の里
29日	UMOU（資源）回収	修正小学校
6月 2日	避難訓練	明和の里・ありんこ
5日	UMOU（資源）回収	下御糸小学校
7日	学びの里開校式	中央公民館
10日	福祉体験授業（竹の教室）	齋宮小学校
28日	コープみえ協定式	
7月1日～	福祉のまちづくり資金（社協会費）募集期間	明和町内
7月31日		
7月 9日	家族介護教室①（アンガーマネジメント）	いつきのみや地域交流センター
8月27日	障がい者グループホーム新築工事指名競争入札 障がい者グループホーム入所判定委員会	明和の里 明和の里
9月21～27日	SDGs イベント協力（リサイクルものづくり・ 手話体験・ボッチャ体験・UMOU回収BOX）	イオンモール明和店
10月1日～	赤い羽根共同募金運動実施期間	明和町内
12月31日		
10月14日	福祉体験授業（点字）	大淀小学校
16日	協議体～ささえあいのまちづくり～	いつきのみや地域交流センター
17日	子ども食堂～秋のお祭り～	明和の里・ありんこ周辺
20日	福祉体験授業（高齢者疑似体験・意見交換会）	近鉄明星駅
11月1日・4日	福祉体験授業（障がい者スポーツ・アイマスク・ 白杖体験）	大淀小学校
6日	UMOU（資源）回収	下御糸小学校
10日	家族介護教室②（お薬について）	いつきのみや地域交流センター
22日	OBENTO PROJECT 寄付金贈呈式 （三重電子㈱・河田フェザー㈱）	明和の里
	福祉体験授業（車椅子体験）	大淀小学校
27日	UMOU（資源）回収	上御糸小学校・修正小学校
29日	福祉体験授業（障がい者スポーツ）	齋宮小学校
11月25日～	歳末たすけあい募金募集期間	明和町内
12月10日		
12月 4日	UMOU（資源）回収	明星小学校

令和 4年 3月25日	障がい者グループホーム「やわらぎ」引渡	やわらぎ
----------------	---------------------	------

1-⑤. 職場内会議・研修

会議・研修名・講師	参加職員
<p>●職場内会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営会議（定例：12回） ・衛生委員会（定例：12回） ・資質向上委員会（全7回） ・感染症対策委員会（1回） <p>●職場内研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染防止対策の為開催なし <p>●外部研修（三重県社会福祉協議会主催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパス対応生涯研修（チームリーダーコース） ・キャリアパス対応生涯研修（中堅職員コース） 	<p>会長・局長・次長・課長</p> <p>会長・局長・事業・課長・衛生管理者・従業員代表</p> <p>担当職員</p> <p>局長・次長・担当職員</p> <p>対象職員1名</p> <p>対象職員2名</p>

2. 社会福祉事業の普及啓発

2-①. 地域福祉（活動）計画の推進

事業目的	<p>本計画を推進するため「明和町地域福祉（活動）計画推進委員会」を開催し、計画の進捗状況の把握・検証、取り組みの評価を実施します。</p> <p>町の福祉、保健、教育、人権問題、まちづくり、防災、生活環境など様々な分野の担当課と本会による連携の場をもち、情報共有、共同での課題解決、新たな取り組みへの研究・検討など連携につとめます。</p>
事業実績	<p>●地域福祉計画策定・推進委員会、地域福祉活動計画策定・推進委員会 第1回（書面による報告・承認）</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 地域福祉計画・地域福祉活動計画 推進状況（中間報告）について ② 地域福祉計画・地域福祉活動計画 愛称募集について <p>●地域福祉連絡会議 （書面による報告・確認）</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 第1回地域福祉計画・地域福祉活動計画 報告・承認事項について
事業評価	<p>●新型コロナウイルス感染症の影響により、地域福祉（活動）計画推進委員会を開催することが出来ませんでした。書面にて報告を実施し、承認を得ました。</p>

今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症の影響により、人と人との一定の距離の確保や接触する機会を減らす事を求められるようになり、これまでの形での地域活動やボランティア活動は、開催場所や換気や消毒等感染症予防対策が必要となり、活動時期や活動内容、活動方法など見直す必要があります。 ●本計画内でこの計画を推進していくために、行政担当課と社会福祉協議会の連絡会議を定期的実施することで、さらなる連携と協力を図り、具体的な活動を見直す必要があります。
-------	--

2-②. 地区福祉委員会への活動助成（自治会長・民生児童委員）

事業目的	地域の生活環境のなかで、個人の力ではどうにも解決できない問題を、住民一人一人が地域ぐるみで実践するための組織づくりを行います。						
事業実績	配分金（円）						
		大 淀	上御糸	下御糸	斎 宮	明 星	合 計
	令和3年度	61,490	76,550	70,190	102,920	88,850	400,000
	令和2年度	63,275	73,925	69,230	106,220	87,350	400,000

2-③. ひとり暮らし高齢者・高齢者世帯の交流（おでかけ交流会）

事業目的	明和町在住のひとり暮らし高齢者及び高齢者世帯を対象に日帰り旅行を行うことにより、日々の暮らしの様子や生活課題はないかなどの確認や、旅行を楽しみに生きがいを持って生活していただくことを目的としています。						
事業実績	参加人数（人）						
		大 淀	上御糸	下御糸	斎 宮	明 星	合 計
	令和3年度						
	令和2年度						
事業評価	<ul style="list-style-type: none"> ●例年鳥羽方面への日帰り旅行を実施しており、日頃遠出や買物の機会が少ない参加者に喜ばれ、地域の方との交流も楽しんでいただいていたのですが、昨年度に続き今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止の為、中止となりました。 						
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ●安全かつ安心して参加していただけるよう、新型コロナウイルスやその他の感染症の推移を見守りながら実施の有無を検討する必要があります。 ●実施するにあたっては、感染予防の対策が充分に行える環境を整える必要があります。 ●70歳以上のひとり暮らし、高齢者世帯を対象としていますが、その中でも自力でバスの乗降ができる等、参加条件が一部限定されるところがあります。 						

2-④. ひとり暮らし高齢者・高齢者世帯等への歳末見舞い

事業目的	歳末の時期にあたり、多くのひとり暮らし高齢者や高齢者世帯などの方々へ個別訪問を行うことにより、安否確認・不安なく健康で新しい年を迎えられることを目的としています。				
事業実績	配布数（個）				
	対象者	要援助世帯	ひとり暮らし 高齢者	高齢者世帯	合計
	令和3年度	44	574	536	1,154
	令和2年度	46	584	528	1,158
事業評価	<ul style="list-style-type: none"> ●年々、高齢者世帯は増加傾向です。 ●見舞品の配布をきっかけとした訪問活動を通じ、対象高齢者の安否確認、現況把握ができ、地域の方々と民生委員の方との信頼関係構築につながっています。 ●新型コロナウイルス感染症の影響により、地域の繋がりが少なくなる中、貴重な訪問活動の機会となっています。 				
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ●今後も対象となる世帯が増加傾向をたどると予想され、募金額の減少に伴い、他の財源確保も検討する必要があります。 ●対象者の中には事業目的に理解が得られず、調査に協力が得られないケースがあり、把握できていない対象者もあります。 ●要援助者世帯について、個人情報の問題が生じ、把握が難しいケースがあります。 				

2-⑤. 広報誌の発行

事業目的	住民の皆さんに、社協の様々な活動内容をご理解いただくとともに、地域福祉活動に積極的に参加するための情報を提供することを目的としています。
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ●「社協だより」 年4回発行・社協の活動紹介 基本理念、事業実施計画（重点取り組み項目）、収支予算、収支決算、町内企業CSR活動紹介（アイリス南郊株）、コープみえ様食材支援協定、地域活動紹介（大根堀りを通じたつながりづくり活動）、表彰（三重県共同募金会、明和社協）、寄附金・寄附物品報告（直売店「サン様」お礼）、協議体開催、福祉出前授業、募金活動実績報告・御礼（日本赤十字社社資、福祉の町づくり資金、赤い羽根共同募金、歳末たすけあい募金）、福祉の職場見学案内（YouTube） ●「広報めいわ」に「社協だより」コーナーを掲載 「地域の輝く人」紹介（金剛ヶ丘自治会活動協力隊、めいわサポーター）、OBENTO PROJECT（お弁当支援）、子ども食堂イベント、子ども食堂支援（ランドセル募集）、生活困窮者一次相談、UMOOU プロジェクト、家族介護教室（介護者健康教室）、協議体開催、寄付金贈呈式、ボランティアセンターだより「てとてを」（点

	字サークル、明和鈴の音会)、ひとり暮らし高齢者等実態調査、えんがわ教室参加者募集
--	--

2-⑥. 社協ふれあい祭りの実施

事業目的	日頃、ボランティアなどに従事している各福祉団体や、ボランティア団体、社会福祉施設に参画いただき協同の輪をひろげるとともに、福祉に関わる機会の少ない地域の皆さんに、楽しみながら福祉を身近に感じていただける機会をつくります。地域の皆さんと交流し、社協が実施している事業や、ボランティア活動、募金運動など、地域の皆さんにひろく福祉について関心を持っていただく事を目的としています。
令和3年度事業実績	・新型コロナウイルス感染症の影響により中止。
令和2年度事業実績	・新型コロナウイルス感染症の影響により中止。
令和元年度事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・会長表彰並びに感謝状授与式 ・ステージ発表【明和中学校(吹奏楽部)、ゆたか保育園盆踊り、ぱる♪、FreeZ NOTE、輝風、ありんこ、業平夢太鼓、北野友楽クラブ、フィナーレ(みんなであらじや音頭)】 ・子ども食堂支援募金活動(明和中学校ボランティア部) ・自立相談支援事業啓発(三重県生活相談支援センター) ・UMOJ プロジェクト啓発 ・福祉スタンプラリー【手話体験、点字体験、パラスポーツ体験(車椅子バスケット、フライングディスク)】 ・ふるまい【ながしそうめん】 ・缶ぽっくり作りコーナー ・縁日コーナー【輪投げ、魚釣りゲーム、ストラックアウト、おじゃみ投げ、ゲーゴル、玩具金魚すくい】 ・ちびっこ子ども広場【遊び場、イラストコーナー、鉄道模型操作体験、保護者向けハンドマッサージ】 ・ウォーリーを探せ(イベント回りゲーム) ・夜店【ドリンク、ポップコーン(わだち)・綿菓子(FreeZ NOTE)・焼きそば(エヌイベントジャパン株式会社)】*()内、協力団体 ・バルーンアート ・菓子まき ・café茶々(ありんこ)販売【カレーライス、かき氷、唐揚げ、サーターアンダギー、フランクフルト】 ・販売【母子寡婦福祉会、南勢就労支援センター、第二南勢就労支援センター、さいさいど、あざふるさと、ベアグルファンズ、ぎゅーとら、ありんこ】

事業評価	<ul style="list-style-type: none"> ●昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、感染拡大防止の観点から中止を余儀なくされました。 ●平成 30 年度より開催時期を夏にし、夕方から夜にかけて開催することに定着しつつあり、また年々多くの協力団体や企業、学校からもボランティアや参加にご協力いただいております。 ●地域の皆さんにも、社協「ふれあい祭り」として毎年交流を楽しんでいただき、日頃福祉に触れる機会の住民の皆さんへの啓発の場としていましたが、啓発の機会が減ってしまいました。 ●ステージ発表を通して、多くの団体の日頃の活動の成果を披露する場としていただいていたのですが、成果発表の場が失われてしまいました。 ●多くの団体や企業、学生のボランティア体験や福祉体験の場として活用していただいておりますが、ボランティア体験や福祉体験の機会が減ってしまいました。 ●社協「ふれあい祭り」の中で功労者表彰を実施する事で、多くの地域住民の方に直接ご紹介する機会としておりましたが、紹介する機会が失われてしまいました。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ●次年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響が予想され、開催についても令和元年度開催における総来場者延べ2000人という規模を鑑みると、開催内容や形式等十分な検討が必要です。 ●2年続けての開催見合わせとなりましたが、明和町老人クラブ連合会やボランティア団体「みんなの食堂こむすび舎@めいわ町」、明和町グランドゴルフ協会等、様々な地域団体より参加表明の申し出を頂戴しており、様々な世代、団体等との関係性を維持発展させていくことで、コロナ終息後の開催に向けて準備を進めていく必要があります。 ●開催中止となった場合、ボランティア団体や福祉団体の成果発表の場や、多くの団体や企業、学生のボランティア体験や福祉体験の場、地域住民の皆さんへの福祉啓発の場が失われたり、機会が減ってしまうため、その代わりとなる発表や活動の場を検討する必要があります。

2-⑦. 明和町社会福祉協議会会長表彰

事業目的	<p>地域福祉の推進に多年活動を続け、その功績があった方、その他広く福祉の増進に功労のあった方に対し、会長がこれを表彰し、また感謝の意を表し、その功績を讃えらるとともにあわせて地域福祉活動の発展に寄与することを目的としています。</p>	
事業実績	令和3年度	<p>会長表彰・感謝</p> <p>地域福祉功労者 1名</p> <p>ボランティア活動功労者 1団体・1名</p> <p>地域福祉活動寄付功労者 2社</p>
	令和2年度	<p>会長表彰・感謝</p> <p>地域福祉功労者 1名</p> <p>地域福祉活動寄付功労者 1名</p>

3. 各種運動の推進・寄附金

明和町	令和3年度	96
自治会数	平成2年度	96

3-①. 日本赤十字社募金運動（1世帯 500円程度）

区 分		一般社資	(自治会数)	合 計
募金額 (円)	令和3年度	1,258,717	(71)	1,258,717
	令和2年度	1,238,210	(71)	1,238,210

3-②. 社協会員増強月間（一般 300円 特別 1,000円程度）

区 分		一般賛助会員(自治会数)	特別賛助会員 (件数)	合 計
募金額 (円)	令和3年度	889,411 (72)	0 (0)	889,411
	令和2年度	838,454 (68)	0 (0)	838,454

3-③. 赤い羽根共同募金運動（1世帯 500円 法人 3,000円程度）

区 分		一般募金 (自治会数)	法人募金 (法人数)	職域募金	イベント募 金・街頭募 金・募金付自 販機 他	羽毛 回収	合 計
募金額 (円)	令和3年度	1,135,000 (64)	321,740 (117)	53,201	147,868	39,480	1,697,289
	令和2年度	1,136,950 (67)	423,240 (116)	59,546	69,250	34,546	1,723,532

- ・職域募金（明和町役場・明和消防署・百五銀行株・河田フェザー株・三重電子株・明和町社会福祉協
議会・斎宮歴史博物館・埋蔵文化センター）
- ・イベント募金・募金付自販機・街頭募金（スーパーサンシ明和店・ぎゅーとら明和店）

3-④. 歳末たすけあい運動（1世帯 200円 法人 1,000円程度）

区 分		一般募金(自治会数)	法人募金 (法人数)	その他 (個人・職域)	合 計
募金額 (円)	令和3年度	713,990 (74)	123,000 (111)	10,815	847,805
	令和2年度	678,720 (71)	120,000 (111)	14,490	813,210

3-⑤. 寄附金

区 分		件数 (件)	金額 (円)・物品名
寄附金	令和3年度	85	1,113,472
	令和2年度	76	681,348
寄附物品	令和3年度	130	新米 60 kg、30 kg、白米 248.5 kg、玄米 1,245 kg、もち米 30 kg、無洗米 20 kg、シルバーカー 1 台、パンジー苗 400 株・アラセイトウ苗 80 株、お手玉 30 個、尿取りパッド、さつま芋 3 箱、メロン 15 個、春キャベツ、じゃがいも、カボチャ、小松菜、新玉葱、サニーレタス、ブロッコリー、大根菜、人参 他
	令和2年度	96	新米 60 kg×2、白米 30 kg、玄米 90 kg、餅米 30 kg、不織布マスク 2,000 枚、布マスク 22 枚、羽毛布団 1 組、白タオル 108 枚、尿取りパット、芽ひじき 12 kg、豚肉 800 g、カットわかめ 1 kg、しそひじき 750 g、緑茶 300 g×7、大根、キャベツ、じゃが芋、ブロッコリー、白菜、苺、蕪 他

4. 福祉用具等の貸出に関する事業

4-①. 福祉機器等の貸出 (ベッド・車いす)

事業目的	日常生活に支障をきたしている方に対して、福祉用具を貸出することにより、在宅介護の支援を行います。			
事業実績	種 別	保有数 (台) (貸付数:3月末)	延べ申請数 (台)	
	車 椅 子	12 (5)	令和3年度	34
			令和2年度	21
	ベ ッ ド	3 (1)	令和3年度	4
令和2年度			0	

4-②. バザー用具等の貸出

事業目的	野外活動や町内各種イベント及び祭りを開催する団体・グループ・自治会などに貸出をし、その収益を福祉のまちづくり資金や各種募金活動の資金にすることを目的としています。
------	---

事業実績		貸出件数 (件)		
		令和3年度	焼き鳥器・・・0 焼きそば機・・・0 ポップコーン機・・・1	テント・・・0 かき氷機・・・0
令和2年度		焼き鳥器・・・0 焼きそば機・・・0 ポップコーン機・・・0	テント・・・0 かき氷機・・・0	わたがし機・・・0 たこ焼き機・・・0

4-③. 祭壇の貸出事業 (祭壇・天幕・鯨幕)

事業目的	町民の便宜を図り、併せて生活改善の啓発に役立てることを目的としています。		
事業実績	保有数 (台) (貸付数:3月末)	延べ申請数 (台)	
	2 (なし)	令和3年度	0
		令和2年度	0

4-④. 地域コミュニティー備品貸出事業

事業目的	住民で組織する団体等が行う地域社会活動を支援し、地域コミュニティーの活性化と自主的な社会貢献活動を促進するため、地域コミュニティー備品を貸出します。		
事業実績		貸出件数 (件)	
		令和3年度	公式わなげセット・・・1 ケンコーボッチャセット・・・1
	令和2年度	公式わなげセット・・・1 ケンコーボッチャセット・・・1	ディスクゲッター9・・・1 安全ソフトダーツ・・・1
事業評価	●今年度は自治会のイベントは開催が難しく活用されませんでした。交流会等で活用されました。		
今後の課題	●サロンへの訪問時に障がい者も共に楽しめる「ボッチャ」などの競技を実際に紹介・体験してもらい、競技への興味を持ってもらう働きかけが必要です。 ●明和町サロン支援事業や自治会のイベントでのニーズを反映して、貸出物品メニューの再検討をする必要があります。		

5. 地域支え合い体制づくり事業

5-①. ひとり暮らし高齢者・高齢者世帯等の実態調査事業

事業目的	民生委員・児童委員と協働し、訪問、声かけ、安否確認などの活動を通じて、担当区域内の住民の実態やあらゆる福祉ニーズを日常的に把握します。また地域の行事
------	--

	や会合などにも参加し、情報収集に努めます。				
事業実績		要援助世帯 (世帯)	ひとり暮らし 高齢者 (名)	高齢者世帯 (世帯)	合計
	令和3年度	44	575	545	1,164
	令和2年度	46	589	528	1,163
事業評価	<ul style="list-style-type: none"> ●ひとり暮らし高齢者は施設入所となった方が増え、対象者数は減少しています。 ●高齢者世帯は増加傾向で、今後も増加すると予想されます。 ●要援助世帯（寝たきり高齢者・認知症高齢者・ひきこもりその他援助が必要と思われる世帯）においては昨年度と世帯数の変化はみられませんでした。今後増加傾向をたどると予想されます。 				
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ●対象となる世帯は全体的に増加傾向をたどると予想されます。 ●対象者の中には事業目的に理解が得られず、調査に協力が得られない方があり、状況を把握出来ていない対象者もあります。 ●要援助者世帯についても個人情報保護の問題以外にも、プライバシーに配慮した調査を実施する必要があるとあり、把握が難しいケースが出てくると予想されます。 				

5-②. 明和町サロン支援事業（旧いきいきサロン支援事業）

事業目的	高齢者の外出を促し、集える拠点として公民館を整備し、ボランティアを中心としたサロン活動を行うことで介護予防につなげるとともに、世代を超えた地域住民同士の支え合いの体制を構築することを目的とし、活動の継続的な支援を行います。			
事業実績		開催回数 (回)	活動時間 (時間)	活動内容
	令和3年度 (58会場)	月10回以上：3 週2回：1 週1回：6 月2回：11 月1回：23 その他不定期 : 14	2時間：18 3時間：11 4時間：4 5時間：3 6時間：4 その他：18	カラオケ、ゴーゴー体操、ラジオ体操、グランドゴルフ、クロリティー、ペタンク、輪投げ、ハイキング、脳トレ、講話、食事会、茶話会、お花見、料理、忘年会、新年会、子供会への協力、自治会行事への協力、公園掃除、墓地掃除、神社境内手入れ、踊り、囲碁、将棋、麻雀、俳句、手芸、太極拳、お菓子づくり、地元の歴史を学ぶ、町内バスによる町内観光、健康ひろば、ゴキブリ団子作り、大正琴、マジックの鑑賞、農作業等々

	令和2年度 (59会場)	月10回以上：2 週2回：1 週1回：6 月2回：11 月1回：25 その他不定期 ：14	2時間：18 3時間：11 4時間：5 5時間：4 6時間：4 その他：17	カラオケ、ゴーゴー体操、ラジオ体操、グランドゴルフ、クロリティー、ペタンク、輪投げ、ハイキング、脳トレ、講話、食事会、茶話会、お花見、料理、忘年会、新年会、子供会への協力、自治会行事への協力、公園掃除、墓地掃除、踊り、囲碁、将棋、麻雀、俳句、手芸、太極拳、お菓子づくり、地元の歴史を学ぶ、町内バスによる町内観光、健康ひろば、ゴキブリ団子作り、大正琴、マジックの鑑賞、農作業等々
事業評価	<ul style="list-style-type: none"> ●生活支援コーディネーターやボランティアコーディネーターが、地区民生委員をはじめとする皆さんにひろく情報収集を行う中で、自主的に集いサロン活動を継続的に実施している所が新規で1つ把握され、またそれぞれのサロン活動の内容に関するご相談等を継続的に受けながら支援を展開する事ができました。 ●目的をもって自主的に活動を展開しているサロン活動は、コロナ禍にあっても様々な工夫をしながら早期に活動を再開するなど、サロン活動の活発化を支援する上で明るい材料も発見されています。 ●引きこもりがちな住民に対して、適するサロンにコーディネートする事で、社会参加を果たすなど、効果的な支援を実施することができました。 ●各サロンを訪問し、関係性を構築していく中で、助言を求められたり今後の活動展開に関してご相談を頂くなど、それぞれのサロンが継続的に活発化していく為の支援ができています。 ●コロナ禍においても、地域に貢献する活動を通してサロン活動を継続している町内の単位老人クラブが、全老連の「活動賞」を受賞するなど、明るい話題もありました。 			
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ●代表者や役員のみ負担が偏りがちなサロンが多いため、参加者全員で役割分担をしたり、地域のボランティアの力を借りたりして、安定したサロン運営ができるように支援をしていく必要性を感じています。 ●昨年度に引き続き、多くのサロン活動が新型コロナウイルス感染拡大に伴い自粛となり、部分的に活動再開に向けた支援（感染拡大防止対策等）は実施できたものの、特に老人会を母体としたサロン活動はその多くが休止したままとなっており、効果的な支援が実施できていません。 ●今年度、新たに2つのサロン活動が担い手不足を大きな要因として解散に至りました。これに対する有効な支援を見出す事が難しい状況があります。 ●上記の事象に関連し、後継者不足や役員の負担等で継続が危ぶまれるサロンが多数 			

	<p>存在しており、有効な支援を見出す事が難しい状況にあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●昨年度も生活支援体制整備事業と連動して、各ボランティア団体や老人会等、サロン活動を展開している住民の方にご参加いただき協議体開催を行いました。身近な地域で誰もが気軽に集える場づくりについても協議を行いました。コロナ禍でも住民さんの活動を後押しできる様な具体的な支援が必要とされています。 ●引き続き、趣味や関心を持った方々が自治会等の枠を超えて集える「つどいの場」として開催されるサロンの訪問を継続し、情報提供やコーディネート等、必要に応じた支援に努める必要があります。 ●老人会主催のサロン活動は衰退の一途を辿り、休止が継続されているサロンも多く見受けられます。一方で、町内単位クラブが全老連の「活動賞」を受賞される等、コロナ禍にあってもできる活動を継続しているサロンがある事などを広報する事で、住民主体の活動を促進する必要があります。
--	---

5-③. 介護支援ボランティア活動推進事業

(高齢者有償ボランティア活動ポイント支援事業)

事業目的	<p>元気な高齢者が特別養護老人ホーム等でボランティア活動を行うことにより、本人の健康増進や介護予防につなげること、社会参加、地域貢献を通じた生きがいを促進することを目的としています。</p> <p>受入施設にとっては、ボランティアが訪れることで地域とのつながりが深まるとともに、入所者を心豊かにするという目的があります。</p>			
事業実績		登録数	ポイント 転換交付数	活動事業数
	令和3年度	96名	940P	16事業
	令和2年度	99名	950P	16事業
事業評価	<ul style="list-style-type: none"> ●今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの福祉施設でボランティア活動が実施できず、ポイント転換交付数は昨年度並みでした。 ●本会の一般介護予防事業（筋力脳力あっぷ教室・えんがわ教室）では、ボランティア活動を継続実施し、コロナ禍にあっても地域の交流の場となりました。 ●新型コロナウイルス感染症の影響が長引いており、活動をやめてしまう団体や個人が増え、新規に3名の加入がありましたが、全体の会員数は減少しています。 			
事業課題	<ul style="list-style-type: none"> ●ボランティアポイントの活動場所が主に老人福祉施設等に限定されている為、新型コロナウイルス感染症の影響により、活動を促進する事が難しくなっています。 ●新型コロナウイルス感染症の終息を見据え、ボランティアが活躍できる場を紹介できるよう新たな活動事業所の開拓も検討していく必要があります。 			

5-④. めいわサポーター【めいサポ】活動推進事業

事業目的	年齢などに関係なく、地域に住んでいるみなさんがお互いに支え合いながら自分らしく活躍できるように、地域の人々との交流・関係づくりをすすめ、福祉事業など公的サービスと助け合いながら暮らすことのできる仕組みをつくることを目的としています。				
事業実績		活動者登録数	利用者登録数	ポイント 転換交付数	
	令和3年度	26名	20名	2,560P	
		地域依頼	・粗大ごみ処理 3件 ・家財整理(処理) 1件(3回) ・ドアノブ修繕 2件 ・庭木剪定 2件 ・草刈り 5件 ・草取り 5件 ・冷蔵庫搬入 1件 ・家庭ごみ処理 2件(可燃ごみ1回/週) (可燃ごみ2回/週・金属缶、瓶2回/月) ・蜘蛛の巣取り 1件 ・ホース交換 1件		
		社協事業	OBENTO PROJECT 29件 配食サービス 995件		
		活動者登録数	利用者登録数	ポイント 転換交付数	
	令和2年度	24名	10名	2,920P	
地域依頼		・草刈 5件 ・粗大ごみ処理 2件 ・可燃ごみ 2件(延べ129回) ・洗濯機処理 1件 ・毛布洗濯 1件 ・エアコンフィルター掃除 1件 ・雨どいの撤去 1件			
社協事業		OBENTO PROJECT 6件 配食サービス 1,152件			
事業評価	<ul style="list-style-type: none"> ●ケアマネジャーや地域包括支援センターからの紹介、一般介護予防事業参加者からの依頼が定着してきています。 ●ゴミ出しをする活動者が一定人数定着してきており、利用者の多様なニーズに対し柔軟に対応していただく事で、活動の幅が広がっています。 ●近所の方の手助けをしたいというお気持ちから、活動者の方が利用者の方と一緒に登録され、近所の方の支援に活動されています。【めいサポ】として活動することで、支援する側も支援される側も遠慮のない活動が実施できています。 ●活動実施状況から、草取り・草刈り・荷物移動等は400円/30分に変更しました。 				

事業課題	<ul style="list-style-type: none"> ●チケット購入が10枚単位の為、少しだけ利用されたい方についてはチケットが残ってしまうということがあります。 ●庭の草取りは、作業後の出来栄えを活動者、利用者共に求める傾向にあり、作業時間が長くなりがちです。助け合いの有償ボランティアである事の共通認識が必要であると感じます。 ●活動者を募集するのではなく、利用者ニーズを多く発掘し、地域のつながりの中で活動者を生み出す方向に転換することでスムーズな支援に繋げることができます。 ●家の修繕や掃除のコツのような学びから、新規活動者の発掘につながるような研修計画も企画する必要があります。
------	---

5-⑤. 配食サービス事業

事業目的	高齢者の居宅に配食を行うことにより、食生活の改善、健康維持及び配達時の見守りにより孤独感の解消を図るとともに、自立した在宅生活を支援することを目的としています。	
事業実績		延べ利用人数（人）
	令和3年度	88
	令和2年度	95
事業評価	<ul style="list-style-type: none"> ●通常、祝日の配食サービスは実施しておりませんが、3年度も5月のGWについてはサービスを実施しました。利用者様の栄養状態の維持、御弁当を配達する事で安否確認もできました。利用者様にも「よかった」と喜びの声もいただきました。 	
事業課題	<ul style="list-style-type: none"> ●1日に配食できる数量に制限があり、新規で多くのご利用をお受けすることができませんが、現状の配食数を維持しながら事業継続に努めていきます。 	

5-⑥. 生活支援サポーター養成事業

(高齢者有償ボランティア活動者・めいわサポーター【めいサポ】担い手養成事業)

事業目的	地域住民の生活ニーズに応える仕組みを安定的・継続的に構築するため、住民の主体性に基づき運営される新たな住民参加サービス等の担い手として生活支援サポーターを養成し、活躍される方を支援します。
事業評価	<ul style="list-style-type: none"> ●担い手を必要としていますが、3年度は講座の企画、開催ができていません。
事業課題	<ul style="list-style-type: none"> ●地域独自で、住宅の修繕や掃除のコツなどを学ぶような企画を実施している団体より講師等を招いて、一般住民向けの勉強会等開催していく事で、多様な世代とつながる事が出来る機会を創出していきます。 ●地域で助け合い、支え合いの活動をしている団体同士の交流会などを開催し、その場へ活動に興味のある方を招き、新たな担い手の研修の場としていく事で具体的な活動がイメージしやすくすることで新たな活動へつなげていくような仕掛けを企画する事が必要です。

5-⑦. 災害ボランティアの育成

事業目的	災害時、まず自分の周りの方を助けたり、避難所で活躍したりしていただけるボランティアを養成します。普段から防災・災害に対する意識を住民の皆様にも持っていただけることを目的としています。		
事業実績		参加人数	
	令和3年度	災害ボランティア養成講座は新型コロナウイルス感染防止対策の為計画されませんでした。	
	令和2年度	災害ボランティア養成講座は新型コロナウイルス感染防止対策の為中止となりました。	
事業評価	●昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度も講座が開催できませんでした。		
事業課題	<ul style="list-style-type: none"> ●講座の開催は難しい現状ですが、災害時での新型コロナウイルス感染症への対応といった新たな課題についても検討し、新たな講座を実施する必要があります。 ●このままコロナ禍の状況が継続される事で、行政・自主防災組織との関わりが薄れていく事が危惧されます。 ●養成講座という内容以外での、行政・自主防災組織・防災ボランティア・福祉施設・福祉事業所や社協が連携を語り、災害に備えるという新たな取り組みが必要と感じます。 		

5-⑧. 明和学びの里運営事業

事業目的	中学生に学習の場を提供するための夜間の自習塾として「明和学びの里」を開設し、地域の方々や大学生等の協力による自習補助を行うこと、生徒と地域の方々とのつながりの場を設けること、地域の方々に生徒及び中学校の応援団として関わっていただき、成長を見守っていただくことを目的としています。				
事業実績		開催日数 (日)	参加人数		
			中学生	学生サポーター	地域サポーター
	令和3年度	25	738	180	99
	令和2年度	25	549	213	95
事業評価	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染拡大により事業が休止されることもありましたが、開催時の参加者の出席率は高めでした。 ●自主学习だけでなく、ALT参加によるハロウィン、クリスマス、ヨガ、英会話など生の英語に触れてもらえる機会を作りました。 ●学びの場に加え、居場所づくりとしての機能も果たすことができました。 				
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ●授業中の様子を保護者に見学いただく機会を作り、学びの里への理解を深めてもらう働きかけを企画します。 ●大学4年生が卒業することで次年度は学生サポーター数が大幅に減少してしまうた 				

	<p>め、新たな学生サポーターの確保が課題です。</p> <p>●居場所づくりとしての機能を果たす一方、生徒の学習態度や学習意欲の向上、サポーターと生徒とのかかわり方について理解・意識を深めていく必要があります。</p>
--	--

5-⑨. 支援対象児童等見守り強化事業（旧子ども見守り支援事業）

事業目的	要保護児童対策地域協議会の支援対象児童等として登録されている子どもの居宅を訪問するなどし、状況の把握や食事の提供等を通じた子どもの見守り体制を強化することを目的とします。					
事業実績	6月	7月	8月	9月	10月	11月
	162回	147回	154回	139回	123回	128回
	12月	1月	2月	3月	見守り回数合計	
	125回	111回	124回	155回	1368回	
事業評価	<ul style="list-style-type: none"> ●週1回を基本とする食事提供を通して、細やかな子どもの見守りを実施する事ができました。 ●子どもやご家族からの不安ごとや悩みをキャッチし、そのお話を聴く事で不安やストレスを軽減することができました。 ●関係支援機関とも協力体制が構築され、子どもやご家族からの相談に対して、迅速な支援がなされる様になり、子どもやご家族の不安の軽減につなげることができました。 					
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ●支援を必要とする子どもやご家族は少なからず存在すると考えられ、この事業の周知をひろげていく必要があります。 ●困っている子どもやご家族を支援する上での支援メニューが不足しており、さらに効果的な支援を創出する必要があります。 ●子どもやご家族には、それぞれの悩みや生活上の困難が存在しており、長期にわたり、継続的な見守りが実施できる体制づくりが必要です。 					

5-⑩. OBENTO PROJECT 事業

事業目的	支援対象児童等見守り強化事業に登録されている子ども以外の家族や、その他経済的に困窮または、苦しい家計状況である家庭を支援するため、地元企業や地域住民の皆様が子どもたちを寄附金や寄附食材などで支えたいという気持ちと、地元企業や地域住民の皆様が「仕事」の提供を通じて支えられた「ありんこ」が今度は自分たちが「仕事」で地域貢献したいという気持ち、「地域交流の拠点」として地元で頑張っている「みんなの食堂こむすび舎@めいわ町」の皆様が困っている子ども家庭に手作りのお弁当を届ける活動で支えたいという気持ちが新たな出会い、この活動が生まれました。
------	--

事業実績	弁当無償提供数						
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	304食	281食	369食	347食	370食	342食	315食
	11月	12月	1月	2月	3月	提供食数合計	
	315食	307食	271食	304食	379食	3904食	
事業実績	地域からの OBENTO PROJECT 事業に対するご寄附						
	令和3年度 寄附金合計	879,484円					
	令和3年度 寄附食材等	餅、クッキー、春キャベツ、ホウレンソウ、新玉葱、お菓子 スナップえんどう、サニーレタス、ジャンボ無臭にんにくの芽、 メロン、きゅうり、大根、キャベツ、バナナ、卵、じゃがいも、 人参、ピーマン、いんげん豆、なす、カボチャ、ミニトマト、ズ ッキーニ、ししとう、冬瓜、モロヘイヤ、ミニラーメン、里芋、 紫大根、小松菜、レトルトカレー、ブロッコリー、みかん、白菜、 チンゲン菜、シイタケ、大根菜、甘夏、葱、長芋等、多数の食材。 玄米・白米・もち米 計1693.5kg					
事業評価	<ul style="list-style-type: none"> ●地域住民の皆様、支援機関、支援団体、多くの企業の皆様の「支え合い」の気持ちを食の支援という形で、生活にお困りの18歳未満の子どもがいる家庭にお届けする支援活動が継続的に実施できました。 ●活動を通して、あらゆる皆様からのご支援を頂戴し、この事業を通して、目的の通り「支え合う関係づくり」に寄与されたものと考えられます。 ●この事業への協力を通して、他の福祉事業にも協力・賛同をいただける地域住民の皆様や関係機関・関係団体・企業が増え、一層の福祉活動推進が図られる様になりました。 ●事業に参画いただけるボランティアも増え、福祉活動を支える人材の活躍の機会にもなっていると考えられます。 						
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ●地域にはまだまだ経済的に困りの子育て家庭が多く存在している事と考えられ、この事業の情報を必要な家庭へ的確に広報できることが重要であると考えられます。 ●昨年度を上回るご支援を頂戴した所ありますが、今後も先細ることなく、広報活動等を行うことで、発展的に事業展開がされる様に努める必要があります。 ●運営面においては、寄附金及び寄附食材に頼っている面が多く、継続的且つ発展的に事業運営を行うためにも、安定した財源を確保する事が重要となってきます。またこの事業に直接的に関わっていただけるボランティアの裾野をひろげていく必要があります。 						

6. 介護者支援に関する事業

6-①. 家族介護者支援対策事業（低所得者紙おむつ券給付事業）

6-②. 寝たきり高齢者等紙おむつ券給付

6-③. 重度障がい者日常生活用品（紙おむつ券）給付

事業目的	在宅で生活している高齢者や障がい者で、常時紙おむつを必要とされている方の経済負担を軽減することを目的としています。				
事業実績			家族介護者支援 対策事業 (5,000円)	寝たきり高齢者 等紙おむつ券 (3,000円)	重度障がい者 日常生活用品 (3,000円)
	延べ配布 枚数(枚)	令和3年度	172	66	160
		令和2年度	159	67	156

6-④. 家族介護教室（介護者健康教室）

事業目的	要介護被保険者を介護するものに対し、介護及び介護予防に関する知識及び技術の習得等を行うことで、要介護被保険者の能力の維持向上を図ることを目的とします。
事業実績	<p>【家族介護教室】</p> <p>第1回 日程：7月9日（金） テーマ：「アンガーマネジメント（怒りのコントロール）」（講義） 講師：こころの医療センター 精神保健福祉士 山元 孝二氏 参加者：29名</p> <p>第2回 日程：11月10日（水） テーマ：「高齢者のお薬と上手な付き合い方」（講義） 講師：松阪地区薬剤師会 吉村 和之氏 参加者：28名</p> <p>※ 9月30日（木）に予定していた「目の健康講座」は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、年度内の開催を中止しました。</p> <p>【介護者健康教室】</p> <p>笑いヨガ 10時～11時 講師：鈴木久美子氏 座談会 11時～11時30分</p> <p>第1回 日程：令和3年11月15日（月） 参加者：笑いヨガ 16名／座談会 9名</p> <p>第2回 日程：令和3年12月20日（月） 参加者：笑いヨガ 12名／座談会 8名</p> <p>第3回 日程：令和4年3月14日（月） 参加者：笑いヨガ 8名／座談会 6名</p>

	<p>第4回 日程：令和4年3月28日（月） 参加者：笑いヨガ 5名／座談会 5名</p>
<p>事業評価</p>	<p>【家族介護教室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●第1回：アンガーマネジメント（怒りの対処法）を知る機会は少なく、新しい知識を学び穏やかな生活を送る方法を学ぶ事ができた、質問型で面白く楽しい講義であり考える力がついた、等の意見をいただきました。アンガーマネジメントは、介護の現場や日常生活においても役立つものだと感じました。 ●第2回：高齢になるつれ処方される薬が増える傾向にありますが、なかなか薬剤師としっかりお話をする機会がありません。薬への正しい知識、使用効果、飲み合わせ、飲み忘れ、副作用、ジェネリック医薬品等、薬に対する疑問が少しずつ解決した、医師だけでなく薬剤師の重要性も認識した、等の意見をいただきました。当たり前に行っている事を少し立ち止まって考える機会は大切だと感じました。 ●3年度は広報を自治会回覧とせず、介護事業所へチラシを配布することで広報しましたが、申込み、問い合わせはありませんでした。 ●筋力脳力あっぷ教室、ボランティアグループ、老人会等に案内し参加していただくことができました。広報めいわをみて参加していただく方もありました。 ●質問型の講義で興味深く参加していただきました。 <p>【介護者健康教室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 広報めいわで参加募集をしましたが、申込はありませんでした。昨年度まで笑いヨガに参加していた方へ案内を行うと当初多くの参加者がありましたが、回数を重ねるごとに参加者が減っていきました。 ● 座談会については、30分間という限られた時間ではありますが、色々な家庭事情や悩みを話しされ、傾聴し、可能な範囲でアドバイスさせていただきました。話せる場があるという事は、リフレッシュ効果が期待でき、介護者でなくとも、誰にでも必要な事だと感じました。 ● アンケートの実施結果を関係者と情報共有し、その後も見守りできるよう心がけました。
<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●参加者が固定化している部分があり、本来の必要とする方がをどのようにすれば参加しやすいのかを検討していく必要があります。 ●実際、介護者になったらどうしたらよいのか、制度を知りたいという声が多々ありました。次年度の企画に盛り込んでいく予定です。 ●在宅介護をしている方だけでなく、介護予防の時点で知識を深めていく事も重要であり、多くの人に参加いただける場になるよう検討していく必要があります。

7. 暮らしの相談・支援事業

7-①. 福祉なんでも相談（社協の総合相談）

事業目的	地域住民が、社会とのつながりを持ちながら、「住みなれた地域で楽しくおだやかに暮らしたい」という気持ちを大切に地域での自立した生活を支援します。						
令和3年度 事業実績	相談方法	電話	来所	訪問	その他	合計（件）	
		11	7	5	1	24	
	相談者	一般住民	民生委員 自治会長	ボランティ ア関係	行政	合計（件）	
		12	8	0	1	24	
		福祉施設 職員	団体関係	その他	教室利用者 から		
		0	1	2	0		
	相談内容 (重複あり)	地域生活	地域住民の見守りや支援についての相談（7） 家族に関する相談（5） ご近所づきあいについての相談（1）				
		団体活動	民生委員の活動についての相談（1） 団体運営についての相談（1）				
		福祉サービス 利用	介護保険制度の費用負担についての相談（2） 施設利用についての相談（2） 障害福祉サービスについて（4） 成年後見制度について（2）				
		社協事業利用	日赤募金資材について（1） 福祉のまちづくり資金について（1）				
生活困窮者・ 貸付支援		生活費等に関する相談（2）					
令和2年度 事業実績	相談方法	電話	来所	訪問	その他	合計（件）	
		16	8	1	0	25	
	相談者	一般住民	民生委員 自治会長	ボランティ ア関係	行政	合計（件）	
		9	9	2	1	25	
		福祉施設 職員	団体関係	その他	教室利用者 から		
		1	1	2	0		

事業評価	<ul style="list-style-type: none"> ●地域住民からの相談ごとを、社協職員として一人ひとりが窓口となり、福祉なんでも相談として対応したことで、さまざまな疑問や相談内容があることが改めて視覚化できました。 ●関係機関を紹介するだけでなく、関係機関に直接連絡をとり同行訪問を行ったり、支援会議へ参加するなど、意図的・継続的な関わり方をすることができました。 ●「どこに相談したら良いかわからない」という事でご相談いただいた件数は昨年度と比較してほぼ横ばいの件数となりましたが、各事業において類似の相談は数多く寄せられています。 ●いただいたご相談やお問合せ内容に応じて、継続的に相談支援を実施する事で、1回の相談では解決しない問題に対して、複合的にアプローチする事ができました。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ●様々な相談内容に適切に対応できるようスキルアップを行い、相談支援事業の資質向上に努めていきます。 ●相談者は社協に何らかのかかわりのある方からの相談が多かったため、今後は積極的に地域へ出向く機会を作り、地域住民からの困りごとを直接キャッチできる仕組みづくりをしていく必要があります。 ●今後も社協職員一人ひとりが担当の枠を超えて、地域住民のあらゆる疑問や不安に対する相談窓口であるという意識をもつ必要があります。

7-②. コミュニティソーシャルワーカー（生活支援コーディネーター）の配置

事業目的	<p>◎あらゆる生活課題への対応 地域住民から寄せられる多様な生活課題を受け止め、地域を基盤にして解決につながる支援やその仕組み・連携の場づくりを行い、その解決や予防に向けて取り組みます。</p> <p>◎地域のつながりの再構築 民生委員や自治会と協働し、小学校区や自治会などを単位とする小地域における住民主体の福祉活動を一層強化し、地域のつながりの再構築を図り、だれも排除しない地域社会づくりをすすめます。</p>				
令和3年度 事業実績	コミュニティソーシャルワーカー				
		来所	電話	訪問	合計（回）
	地域住民	20	86	666	772
	関係機関	104	304	98	506
	生活支援コーディネーター				
		来所	電話	訪問	合計（回）
	地域住民	18	66	90	174
関係機関	19	46	20	85	

事業評価	<ul style="list-style-type: none"> ●昨年度立ち上がった「OBENTO PROJECT」に多くの住民さんが参加していただき、また多くの寄附が寄せられるようになり、「支え合い」のまちづくりが促進されています。 ●この事業を通じて、これまで本会として手薄であった児童分野の支援に地域住民と共に着手する事ができ、関係機関との連携体制が構築され、アウトリーチツールと継続的支援の展開方法を確立する事ができました。 ●明和町サロン支援事業やめいわサポーター【めいサポ】活動推進事業と連動させ、生活課題を抱える地域住民へのアプローチがなされ、サロンや農園等と連携して課題を抱えた住民の方の生活支援が実施できました。 ●今年度、さらに一つの自治会で「自治会活動協力隊」が結成されたことを把握し、広報活動等を行い、「支え合い」のまちづくりの促進を図りました。 ●今年度より、継続的に支援を実施しているボランティア団体が、子どもの放課後支援を実施し、これに対してボランティアコーディネーターやコミュニティソーシャルワーカーが継続的にその運営等の相談支援を実施する事で、住民主体の「支え合い」のまちづくりを後押しする事ができました。 ●閉じこもりがちな高齢者に対して、本会が実施している介護予防教室等と連携し、ボランティアコーディネーターや介護予防教室担当者等が中心となり、地域資源を活用した新たな社会参加への取り組みを試行的に実施し、参加者からは好評をいただいております。 ●今年度も新型コロナウイルス感染対策を徹底した上で「協議体」を開催し、支え合い活動を推進しているボランティア（個人・団体）や自治会の方、福祉施設にもご参画いただき活発な意見交換と情報共有を行う事ができました。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ●生活支援サービスが地域で確立されつつありますが、昨年度課題として挙げた地域資源の可視化を行うには至れず、次年度以降にその実現を目指す必要があります。 ●生活課題を抱える世帯（者）と地域資源をより広域的且つ効果的につなぐ仕組みづくりが必要とされています。 ●町内の福祉事業所や企業等との連携体制をさらに強固なものとし、住民主体の福祉活動をバックアップできる仕組みづくりを進める必要があります。 ●上記課題を解決に結びつける上でも、地域住民をはじめとするあらゆる人・機関が協議できる場を整理し構築していくことが必要とされています。

7-③. 成年後見制度に関する事業

事業目的	<p>認知症、知的障がい、精神障がいなどにより、判断能力が不十分な方々の権利を擁護することが、成年後見制度の目的です。</p> <p>令和4年4月には中核機関受任し、本会では本制度の普及啓発、申立支援等の利用促進、法人後見受任体制づくり、住民の後見活動や親族後見のサポートができる体制づくりに取り組んでまいります。</p>
------	---

<p>社協が行う 中核機関・ 法人後見の メリット</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●長年にわたり地域福祉の推進を担ってきた経験を活かし、築き上げてきた地域連携ネットワークを活用した支援ができます。 ●日常生活自立支援事業もしくは生活福祉資金等、他業務との兼務で担当職員を配置していることから、複合的な課題を抱えた方に対する有効な支援として期待されています。 ●法人による組織的な事務管理体制により安全性・信頼性を高めることができるとともに、長期間の後見業務を継続して遂行できます。
<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●4年度より本会に中核機関が設置されます。住民への周知・普及とともに、職員のスキルアップを図り実践に向けての取り組みをすすめていきます。 ●現に権利擁護支援を必要としている人も含めた地域に暮らす全ての人が尊厳のある本人らしい生活を継続し、地域社会に参加できるようにするため、地域や福祉、行政に司法を加えた多様な分野が連携するしくみ(権利擁護支援の連携ネットワーク)づくりが必要です。 ●身寄りがないことで生活に困難を抱える人の問題が出ています。人生設計について、本人の意思の反映・尊重という観点から任意成年後見制度に対する周知・相談のしくみづくりにも取り組んでいきます。 ●今後、親族後見人や市民後見人の確保も求められてくることが予測されます。担い手の育成・サポート体制を構築していくことが必要です。

7-④. 日常生活自立支援事業（権利擁護）

<p>事業目的</p>	<p>判断力が十分ではない高齢者や障がい者に対し、福祉サービスの利用や日常的な金銭管理を通じて、安心した生活を送れるよう支援することを目的としています。</p>				
<p>令和3年度 事業実績</p>	<p>対応人数：30人 支援回数：平均36回/月</p>				
	<p>利用者</p>	<p>76</p>	<p>646</p>	<p>230</p>	<p>952</p>
	<p>関係機関</p>	<p>334</p>	<p>764</p>	<p>274</p>	<p>1372</p>
<p>令和2年度 事業実績</p>	<p>対応人数：28人 支援回数：平均 37回/月</p>				
	<p>利用者</p>	<p>106</p>	<p>799</p>	<p>293</p>	<p>1198</p>
	<p>関係機関</p>	<p>310</p>	<p>986</p>	<p>431</p>	<p>1727</p>
<p>事業評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●生活支援員11名の方々に支えられ、利用者の生活支援を行ってきました。 ●関係機関との連携を密にし、社会資源の活用も行いながら地域とのつながりを視野に入れた支援を積極的に行いました。 				

今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ●今後、契約件数が増加することが予測されることから、担い手となる生活支援員の確保に努めます。また、研修の機会を確保し、スキルアップに努めます。 ●個々のニーズへの対応が増加する一方、助成額の減額による利用者負担額が増加しており、サービスの質の確保や財源確保に向けた整備が必要です。 ●判断能力の低下やとりまく環境から成年後見への移行が望ましいと思われる利用者も存在します。中核機関の設立とともに連携ネットワークを活用しながら適切な時期に移行していけるよう、取り組んでいきます。 ●本事業に対する理解を住民はじめ関係機関にも周知し、役割分担の明確化を図り、利用者が様々な支援を受けながら地域での生活を続けられる支援体制づくりが求められます。
-------	--

7-⑤. 生活困窮者自立支援事業

事業目的	専門の支援員が相談者に寄り添いながら一人ひとりの状況に合わせた支援プランの作成や、他の専門機関と連携して、解決に向けた支援を行います。				
令和3年度 事業実績	家計改善支援1件				
	来所	電話	訪問	合計	
	利用者	67	240	93	400
	関係機関	29	292	31	352
令和2年度 事業実績	家計改善支援0件				
	来所	電話	訪問	合計	
	利用者	43	169	18	230
	関係機関	12	239	19	270
事業評価	<ul style="list-style-type: none"> ●昨年度に引き続き一次相談窓口として広報を行い、明和町健康あゆみ課や三重県生活相談支援センター（県社協）、多気度会福祉事務所をはじめとする関係機関との連携を密にすることで、地域住民からの相談等支援、関係機関との相談件数も前年度比で倍増に近い増加率となっております。 ●2年度は0件だった家計改善支援事業が、3年度は1件申請があり、自立した生活に向けた支援を実施できました。 ●新型コロナウイルス感染拡大に伴う社会情勢の著しい変化が生じた中、特例貸付業務等と連動しながら、円滑に関係機関との協働でスピード感をもって必要な支援を実施できました。 ●住民ボランティアや企業と共に立ち上げた「OBENTO PROJECT」に対して、昨年度以上のご寄附やボランティア参加をいただき、生活困窮者支援を通じた発展的な地域づくりにも寄与する事ができました。 ●この事業を通じ、これまでニーズ把握が進んでいなかった児童のいる若い世代の世 				

	<p>帯とも途切れない関係を構築し、継続的な支援展開が実施できるようになりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コープみえ様と本会を含む近隣1市4町社協間において「生活困窮者の自立支援事業の連携に関する協定」を締結し、食糧支援等の提供体制を整えました。 ●明和町と本会との間において「生活困窮者自立支援事業等の連携に関する協定」を締結し、地域住民等より寄せられる寄附物品を必要とする生活困窮者へ円滑に提供できる体制を整えました。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ●困窮者の中には複数の問題を抱えている家庭が多く、児童、障がい、高齢分野など多職種・他機関との連携強化、協働が今後ますます求められます。 ●当事者が孤立することなく自立へとすすめるよう、継続的な支援、地域での支えあいや見守りができる仕組みづくりをさらに進めていく必要があります。 ●新型コロナウイルス感染症の影響により、今後なお一層、相談件数は増加する事が見込まれ、地域資源の活用、相談体制の強化が求められます。

7-⑥. みえ福祉の「わ」創造事業

事業目的	<p>少子高齢化の進行や雇用形態の変化、核家族や単身世帯の増加などの家族の変容の中にあって様々な生活課題を抱える方が多くなっています。その中で「制度の狭間」から生じる生活課題を抱える方の支援のうち、地域の課題解決に取り組むために、社会福祉法人の協働による三重県社会福祉法人地域公益活動「みえ福祉の『わ』創造事業」を実施しています。</p>	
事業実績	令和3年度	<p>食糧支援：10世帯（12回） 緊急支援：0件 就労支援：0件</p>
	令和2年度	<p>食糧支援：5世帯（7回） 緊急支援：1件 就労支援：0件</p>
事業評価	<ul style="list-style-type: none"> ●三重県生活相談支援センター（県社協）と協働しながら、その他関係機関との連絡・調整を図り困窮者支援に取り組みました。 ●緊急支援実施後も生活相談支援センターとの情報共有を図り、依頼があった場合には同行訪問をする体制も整えてきました。 ●新型コロナウイルス感染症の影響により特例貸付を申請される方に対して、その生活状況に応じて、効果的に活用することができました。 ●新型コロナウイルス感染拡大に伴う社会情勢の変化が著しく、1回の食糧支援にとどまらず、複数回の食糧支援を要する世帯も散見され、継続的支援における有効な支援ツールとして活用されています。 	
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ●緊急的な支援にとどまるのではなく就労支援や家計改善支援など早い段階から積極的なかわりを進めることで、生活の立て直しができる支援体制づくりが必要です。 ●困窮から抜け出すことができない方々を早期発見できるよう、地域でのつながりづくりの強化、ネットワークの構築が求められます。 	

	<p>●複合的な課題を抱えた世帯が多いため、分野や機関を超えた連携が必要です。明和町生活困窮者自立相談支援事業等において、速やかに介入できる相談支援体制づくりを今後もすすめていきます。</p>
--	--

7-⑦. 生活福祉資金の貸付

事業目的	資金の貸付と必要な援助や指導を行うことにより、その経済的自立や生活意欲の助成促進、在宅福祉や社会参加の促進を図り、安定した生活を送れるよう支援することを目的としています。			
令和3年度 事業実績	貸付実績	種類	貸付数 (件)	貸付額 (円)
		コロナ特例緊急小口 (15万)	1	150,000
		コロナ特例緊急小口 (17万)	1	170,000
		コロナ特例緊急小口 (20万)	11 (15件中4件不承認)	2,200,000
		コロナ特例総合 (初回・45万)	3 (4件中1件不承認)	1,350,000
		コロナ特例総合 (初回・60万)	4 (8件中4件不承認)	2,400,000
		コロナ特例総合 (再貸付・30万)	1	300,000
		コロナ特例総合 (再貸付・45万)	1	450,000
		コロナ特例総合 (再貸付・60万)	6 (7件中1件不承認)	3,600,000
		コロナ総合 (初回・54万)	不承認 1件中1件不承認	0
		コロナ申請件数合計	28	10,620,000
		教育支援資金 就学支度費	2件中1件不承認	224,000
		教育支援資金 教育支援費	2件中1件不承認	612,000
		教育支援資金合計	1	836,000
	相談実績 (件)	来所	電話	訪問

	利用者	76	189	14
	関係機関	12	108	5
令和2年度 事業実績	貸付実績	種類	貸付数(件)	貸付額(円)
		コロナ特例緊急小口 (10万)	5	500,000
		コロナ特例緊急小口 (13万)	1	130,000
		コロナ特例緊急小口 (20万)	58	11,600,000
		コロナ特例総合 (初回・45万)	15	6,750,000
		コロナ特例総合 (初回・60万)	27	16,200,000
		コロナ特例その他 (20万×2, 40万×1)	3	800,000
		コロナ特例総合 (延長・45万)	3 (6件中3件不承認)	1,350,000
		コロナ特例総合 (延長・60万)	13	7,800,000
		コロナ特例総合 (再貸付・45万)	1 (2件中1件不承認)	450,000
		コロナ特例総合 (再貸付・60万)	5 (9件中4件不承認)	3,000,000
		コロナ申請件数合計	139件	48,580,000
		教育支援資金 就学支度費	2	982,000
		教育支援資金 教育支援費	2	2,872,000
	教育支援資金合計	2	3,854,000	
	相談実績 (件)	来所	電話	訪問
	利用者	216	492	22
関係機関	16	182	7	
事業評価	<p>●昨年度に比べ相談件数は減少しましたが、依然、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてみえる世帯があります。</p> <p>●貸付相談を機に OBENTO PROJECT へつなぎ、子どもを抱える世帯へ継続時に関わることができました。</p>			

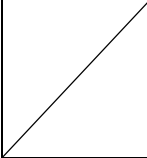
	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ特例申請においては苦境に立たされている申請者に配慮し、時間外対応等速やかな申請へとつなぐことを心がけました。 ●貸付申請だけに留まらず自立相談支援機関へのつなぎ、地域福祉金庫、食糧支援などの社会資源を活用した包括的支援に取り組みました。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ●本制度の利用者は単に貸付だけで解決できるケースではありません。自立支援機関との連携強化が求められていることから、貸付から償還が終了するまで、孤立することのない継続的支援、経済状況の早期立て直しにきめ細やかに取り組む必要があります。 ●生活相談窓口としての広報・啓発、アウトリーチによるニーズの発掘も取り組んでいく必要があります。

7-⑧. 地域福祉金庫の貸付

事業目的	生活困窮者が生活を営む中で、不時の出費を必要とする場合に貸し付けることにより、円滑な社会生活をおくれるようにすることを目的としています。					
事業実績		前年度 未償還額 (円)	貸付数 (件)	貸付額 (円)	償還額 (円)	未償還額 (円)
	令和3年度	445,993	35	878,000	872,493	451,500
	令和2年度	232,000	25	765,699	476,706	445,993
事業評価	<ul style="list-style-type: none"> ●貸付だけで終わらせるのではなく、関係機関と連携して継続的な自立に向けた支援に取り組んでいます。 ●新型コロナウイルス感染症の影響により、生活基盤の不安定な方等を中心に特例貸付の支給決定までのつなぎ生活費としての貸付件数が増加しています。 ●生活困窮者自立相談支援事業の一時窓口開設に伴い、生活に困窮している地域住民からの相談が増大した事に伴い、貸付件数も増加しています。 ●緊急的に生活費を必要とする相談者にスピーディーに対応する事で、窮地を支援することにも繋がっています。 					
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症という社会情勢の変化に伴い、短期的にも長期的にも生活基盤の安定化が見通せない借受人が多数存在し、計画的な償還が難しい状況が生まれています。 ●償還に伴う生活相談等も業務量の増加に伴い、きめ細やかな相談支援の展開が難しい状況が起こっています。 ●特に緊急性を要する貸付相談がその大半を占める中で、地域の民生委員との連携が難しい状況となっています。 ●1回の貸付では改善が見られず、償還完了と同時に再度の貸付を申請されるケースが散見され、課題解決に向けて長期にわたり支援を必要とするケースが存在しています。 					

8. 福祉教育に関する事業

8-①. UMOUプロジェクト

<p>事業目的</p>	<p>使用しなくなった羽毛製品を、貴重な資源として再生させるため、地域の人々が小学校の資源回収時などに寄附し、小学生と「ありんこ」利用者が協力して回収作業を行うことで、地域住民も、小学生も、「ありんこ」利用者も、同じ地域で暮らす住民として、つながりを感じてもらえる一つの場となればという想いを抱いています。また、回収された羽毛製品をエコランドが買取り、募金として赤い羽根共同募金へ募金、その募金は小学校へ配分し子供たちが自分たちの福祉活動に使っていただくことでさらなる福祉教育の充実になります。</p> <p>さらに、羽毛製品の解体を「ありんこ」利用者が行うことにより、障がい者の就労支援にもつながっています。</p>							
<p>事業実績</p>		<p>小学校分</p>			<p>地域分</p>			<p>合計 (枚)</p>
		<p>1 kg 以上</p>	<p>1 kg 未満</p>	<p>ダウンジ ャケット</p>	<p>1 kg 以上</p>	<p>1 kg 未満</p>	<p>ダウンジ ャケット</p>	
<p>令和 3年度</p>		<p>30</p>	<p>7</p>	<p>22</p>	<p>59</p>	<p>19</p>	<p>42</p>	
<p>令和 2年度</p>	<p>27</p>	<p>6</p>	<p>15</p>	<p>26</p>	<p>11</p>	<p>21</p>	<p>106</p>	
<p>事業評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響で、活動回数が減ったり、回収方法も学校行事の際に直接保護者が持ち込むスタイルに変化しています。 ●引き続き町民の皆さんに「羽毛製品の回収＝社協」という認知度は定着しており、本会へ直接羽毛製品を持ち込まれる方が増えています。 ●資源回収の回収物の減少や新型コロナウイルスの感染対策のため、活動時間が短縮しており、ありんこ利用者さんと地域の皆さんが交流する時間も少なくなってきました。 ●イオンモール明和店でのSDGsウィークに明和観光商社を通じて参加する事が出来、UMOU回収を実施し、イベント期間1週間で、町内外から多くの羽毛製品(羽毛布団21枚、ダウンジャケット26枚)を集めることができました。またイベント期間中には、イオンモール明和店へ来場された多くの方に「UMOUプロジェクト」についてPRする機会となり、今後の活動に繋がりました。 							
<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルスの影響もあり、小学校の資源回収時をありんこ利用者さんと地域のPTAの皆さんとの交流の機会とすることには限界があると感じています。引き続き、回収活動は継続実施していきますが、新たな交流の仕掛けを検討する必要があります。 ●イオンモール明和店さんとの繋がりをきっかけに、羽毛製品回収と福祉に繋がるイベントを当事者と共に企画し、学校以外の場でも開催する事で「UMOUプロジェクト」の新しい展開が期待できます。 							

8-②. 福祉協力校（各小中学校への福祉活動補助）

事業目的	<p>小・中学校の児童・生徒に地域住民との交流など、福祉体験活動や、ボランティア活動を進めることで、さまざまな人々と自然に交流できる態度や、地域福祉への関心を育むことを目的としています。</p>
事業実績	<p>大淀小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4年生がユニバーサルデザイン、車椅子、アイマスク、白杖、点字体験授業を実施 ・ 5年生が障がい者スポーツ体験授業を実施 ・ 地域の高齢者施設への訪問、交流活動を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大状況により社会福祉施設等への訪問活動を自粛 ・ 「花いっぱい運動」実施、入学式・卒業式の式場を飾る ・ 浜辺の集会にて全校児童が浜辺のごみ拾いを実施（感染症対策として2学年ずつに分散）、縦割り班にて砂の造形活動、ゲームにて親睦を深める ・ 「見守り隊に感謝の気持ちを伝える会」を計画していたが、まん延防止重点措置期間のため対面行事は中止し、首飾り、花、メッセージカードを贈る ・ 学校だより、学年だよりでの広報活動（浜辺の集会ボランティア、福祉体験学習、見守り隊に感謝の気持ちを伝える会、6年生奉仕作業、6年生を送る会、パンジー、チューリップの栽培） ・ 学習発表会に地域の高齢者を招待する計画だったが、新型コロナウイルス感染拡大状況により自粛
	<p>上御糸小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学年・学校通信で活動紹介 ・ 特別支援学校に在籍する児童との交流学習を実施（活動の様子の動画を視聴してもらう、特別支援学校の児童が描いた絵の掲示での交流） ・ 地域の方々と昔の遊びを通じて交流する計画だったが、新型コロナウイルス感染拡大ため、教職員が代わりに教えた ・ 環境委員によるリサイクル活動 ・ 新入学予定児童への首飾りの贈呈 ・ 三重県身体障害者総合福祉センターによるパラリンピック種目体験授業（ボッチャ、ゴールボール）を実施する計画だったが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止 ・ 環境美化活動（花を育て、自然を大切にすることを育む）
	<p>下御糸小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校だよりと学級だよりにて諸活動紹介（秋川水生生物調査・環境保全活動、稲作体験、野菜の種植え・収穫、花苗の移植、奉仕作業） ・ 秋川の環境保全活動（3・4年生） ・ 学校近くの生き物探し（1・2年生） ・ 野菜の栽培体験

	<ul style="list-style-type: none"> ・資源回収活動 ・地域の清掃活動 ・校舎花壇、畑の整備、花を育て入学式・卒業式の式場を飾る ・綿の栽培（1年生） ・稲作体験にかかわるお餅作り（5年生） ・防犯ボランティアの方への感謝活動 ・UMOUプロジェクトへの協力 ・町内小学校との交流学习（5年生） ・昔の遊びを通じて地域の方との交流を計画していたが、コロナ禍により中止
	<p>齋宮小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校、学級だよりの発行、(竹の学習) ・活動の様子を掲示板へ掲示、広報（障がい者スポーツ体験） ・地域の竹林整備ボランティアの方々と学習会、体験活動（4年生） ・地区探検（2年生） ・障がい者スポーツ体験（ボッチャ、フライングディスク、障がい者競技用車いす体験）（4年生） ・花の栽培体験、交流したボランティアの方へ花のお礼 ・校内美化活動、花いっぱい運動
	<p>明星小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童会主催いじめ防止を目指す活動 ・アイマスク、車いす、バリアフリー体験（4年生） ・自然環境保護活動について学ぶ ・地域の方と田植え体験、地域の方が収穫されたお米の贈呈式で感謝の気持ちを伝える ・校内外美化活動（花を植え、入学式・卒業式の式場に飾る） ・特別支援学校の児童を迎え交流学习 ・6年生への感謝の気持ちを伝える創作活動（1～5年生） ・昔の遊び道具作り（1年生児童） ・4年生が障がい者スポーツ「ボッチャ」の体験をする計画だったが、新型コロナウイルス感染拡大の為中止 ・環境美化学習、パッカー車の見学（4年生）
	<p>修正小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級通信、学校だよりにて活動紹介 ・地域の高齢者施設「千の手」を訪問、利用者と交流、家庭科の授業で制作したタペストリーを贈呈 ・JA、地域の方々と野菜作り ・地域の方に地域に伝わる祭りや昔のことについて学び、学習発表会にて披露 ・6年生に感謝の想いを伝える送る会を実施 ・全校児童で花を育て、防犯パトロール隊や地域の方へ感謝の気持ちを伝え送る、

	<p>また、入学式・卒業式の式場へ飾る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルミ缶の回収 ・町内小学校との交流学習会を実施 ・季節ごとの行事を全校生徒で実施
	<p>明和中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壁新聞にてボランティア活動紹介 ・OBENTO PROJECT 活動参加 ・赤い羽根共同募金活動に協力（街頭募金活動） ・校内美化活動・環境整備活動（花いっぱい活動、校内生活に関する環境整備） ・炊き出し訓練の実施 ・子ども食堂クリスマス会へ参加、活動 ・アフリカの田んぼへの協力
<p>事業評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍で中止となった計画もありましたが、感染予防対策を行いながら地域の方々との対面での交流を実現されています。また、対面以外での交流の方法を工夫しながら実施されています。 ●地域のボランティアの方々との交流を通じ、感謝の心を育む活動が実施できています。 ●地域の清掃活動や地域の方々と共に自然に触れる体験を通じて、地元の自然を大切に作る心、郷土愛を育む活動に力を入れていただいています。 ●農業体験をはじめ、様々な体験を通して日常ではなかなか体験出来ない活動を積極的に取り入れ授業を行っていただいています。 ●普段子供たちが接する機会が少ない方々を学校に招いて、子供たちの広い視野を広げる活動にも取り組まれています。 ●障がい者スポーツ選手の講話や障がい者スポーツ体験授業を通じて障害者スポーツの存在を学び、障がい者や他者への理解を深める機会をつくられています。

8-③. 福祉体験教室

<p>事業目的</p>	<p>地域のボランティアグループや、障がいを持つ当事者の生の声を聞くことや、「体験」を通じて理解を深めていただくために、福祉体験教室を実施しています。</p> <p>相手の立場になって考えたり、共感したりすることのできる温かい心、ボランティアなどの社会貢献をしたいという心を大切に、「ともに生きる力」を育むとともに、自立した個人が、互いにその存在を認め合い、関わりを大切にしながら生きていくという「地域共生社会」の考え方を大切にしています。また将来にわたって自分が住み慣れた地域の福祉に対する理解や関心を持ち、地域社会の中で一人の住民として成長することにより、自ら地域のネットワークづくりに積極的に関わろうとする意識を高めることを目的としています。</p>
-------------	--

事業実績	令和3年度	体験内容	小学校名	体験生徒数
		点字体験	大淀小学校	4年(15名)
		アイマスク・白杖 車椅子体験	大淀小学校	4年(15名)
		アイマスク・白杖、 障がい者スポーツ 体験(グランドソフト ボール)	大淀小学校	5年(22名)
		障がい者スポーツ 体験(ボッチャ、フ ライングディスク、 競技用車椅子乗車)	斎宮小学校	4年(65名)
	令和2年度	点字体験	下御糸小学校	4年(16名)
		障がい者スポーツ 体験(ボッチャ・ゴ ールボール)	上御糸小学校	4年(36名)
			明星小学校	4年(41名)
事業評価	<ul style="list-style-type: none"> ●今年度は4校から依頼がありましたが、上御糸小学校と明星小学校での授業は新型コロナウイルス感染拡大のため中止となりました。 ●障がい者スポーツでは、とこわか国体競技であるグランドソフトボール体験授業を行いました。障がい者スポーツを学ぶと共に、実際に選手からお話を聞いたり一緒にプレーしながら交流する機会をつくることができました。 ●点字体験ではボランティア団体の活躍と広報の場になり、コロナ禍が続き活動が縮小している中でボランティア団体のモチベーションを保つ機会となりました。 ●昨年度に引き続き、近鉄五十鈴川列車区で駅員の方を対象に高齢者疑似体験、白杖体験、車椅子介助体験、視覚障がい者との意見交換会を実施することができました。 ●近鉄五十鈴川列車区においても、当事者である障がい者との意見交換の機会を通じ、相互に理解する学びの場をもつことができました。 ●福祉出前授業を通じて学校、子供たち、企業と社協とのつながりをもつことができました。 ●イオンモール明和店でのSDGsイベントに参加し、特設会場にてボッチャ、手話体験コーナーを開き、広く一般の方にも福祉体験の機会を持っていただけました。 			
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ●今後も町内各小学校で実施できるよう、PR活動を行っていきます。 ●当事者、めいわサポーター、ボランティア団体、民生委員等の地域住民の協力を得ながら共に参加していただける体験授業を実施していきます。 ●今後も三重県身体障がい者スポーツセンターとスポーツ指導員の協力を得ながら障がい者スポーツ体験授業を実施していきます。 			

	<ul style="list-style-type: none"> ●様々な視点からの気づきや共感が得られ、互いに認め合い助け合う心が育まれる効果を生み出せるよう、一回で終わらず連続性を持たせた授業を展開していく工夫が必要です。 ●福祉体験授業としては、一定の効果を感じていただける内容になっていますが、この体験を通じて学んでいただいた体験後の子どもたちの成長に合わせた、さらなる学びの機会につなげ、学校と継続したつながりが持てるよう工夫していくことが必要です。
--	--

8-④. ボランティア・サマースクール

事業目的	夏休み期間を利用して、小学生を対象にボランティア・サマースクールを実施しています。福祉施設等でボランティアを体験することで、思いやりの心を育むとともに、ボランティアを始めるきっかけづくりや、ふれあい、交流することにより、みんなが共に生きることを学ぶことを目的としています。			
事業実績		開催日数	参加人数	内 容
	令和3年度			
	令和2年度			
事業評価	<ul style="list-style-type: none"> ●例年、小学生が日常生活で接することの少ない地域の聴覚障がい者の方や普段経験することの少ない体験を事業の中で経験していただく企画を実施しています。今年度は地域の障がい者施設の見学、障がい者施設利用者様と一緒に昼食を作り交流する計画を立てましたが、8月に入り町内での新型コロナウイルスの感染が拡大した為、やむを得ず中止しました。 			
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス収束の見通しが立たない状況が続いている状況です。感染状況の推移を見守りながら開催の有無を検討していき、感染症対策を行いながら開催できる方法を検討していく必要があります。 ●今後も様々なボランティア体験を通じ、共生、思いやりの心を育める内容にしていくことが必要です。 ●新規参加者等、より多くの子どものボランティア体験をしていただけるよう内容の工夫と共にPR活動を行っていきます。 			

9. ボランティアセンター運営事業

事業目的	地域住民のボランティアに関する理解と関心を深めるとともに、個人ボランティアや団体ボランティアの育成及び活動の援助を行います。
------	--

事業実績	令和3年度	<p>○明和町点字サークル：点字指導 小学校（1回）</p> <p>○おはなし小槌：大型紙芝居・読み聞かせ ふるさと会（8回）、いつきのみや歴史体験館（2回）</p> <p>○明和鈴の音会：広報めいわ録音（9月のみコロナ感染予防の為中止、11カ月実施）</p> <p>○コーラス斎王：コーラスのイベント 町外（1回）、みょうじょうこども園（1回）</p> <p>○業平夢太鼓：太鼓演奏 明和観光商社イベント（2回）</p> <p>○琴の葉：大正琴演奏 えんがわ教室（7回）</p> <p>○Cherry&grape：筋力・脳力あつぷ教室（1回）</p> <p>○おたがいさん：生活支援ボランティア（29回）地域支援（20回）</p> <p>○明和マジッククラブ：町外イベント（3回）、えんがわ教室（10回）、筋力脳力あつぷ教室（4回）、みょうじょうこども園（1回）</p> <p>○アラピカケ：えんがわ教室（3回）</p> <p>○楽しい読み聞かせの会：えんがわ教室（7回）</p> <p>○カントリーずう：えんがわ教室（7回）</p> <p>○ご近所サロンカフェ寺ス：サロン開催（23回参加延人数296名）</p> <p>○竹茗舎：小学校での竹学習（2回）、イベント（3回）</p> <p>○みんなの食堂こむすび舎@めいわ町：イベント開催（10回）見学会（2回）、フードパントリー（2回）、OBENTO PROJECT活動（98回）</p> <p>○淀の会：お花見会（2回）、イベント（1回）、園内の剪定・草取り整備（17回）</p>
	令和2年度	<p>○明和町点字サークル：点字指導（小学校 1回）</p> <p>○おはなし小槌：大型紙芝居・読み聞かせ（ふるさと会 7回・いつきのみや歴史体験館 1回）</p> <p>○明和鈴の音会：広報めいわ録音（5月のみコロナ感染予防の為中止、11カ月実施）</p> <p>○コーラス斎王：コーラスのイベント（町外 1回）</p> <p>○業平夢太鼓：太鼓演奏（イオン明和店 1回）</p> <p>○琴の葉：大正琴演奏（えんがわ教室 1回）</p> <p>○おたがいさん：生活支援ボランティア（5回）</p> <p>○横笛倶楽部：横笛の演奏・マジック（町外イベント4回、イオンモール明和店3回、えんがわ教室2回、明和観光商社イベント1回）</p> <p>○明和マジッククラブ：えんがわ教室3回、町外宅老所2回</p>

		○アラピカケ：えんがわ教室 1回 ○ギターと篠笛を楽しむ会：えんがわ教室 1回 ○楽しい読み聞かせの会：えんがわ教室 1回 ○カントリーずう：えんがわ教室 6回 ○ご近所サロンカフェ寺ス：サロン開催（32回延べ人数276名） ○竹茗舎：学校訪問（1回）、イベント（10回） ○つどい子ども食堂：OBENTO PROJECT 活動（6月開始77回）、イベント開催（6回）
--	--	--

10. 一般介護予防事業

10-①. えんがわ教室

事業目的	65歳以上の高齢者が、要支援・要介護状態にならないように、必要に応じた介護予防のための事業利用を通じ、その居宅および地域において自立した活動的で生きがいのある日常生活を営むことができるよう支援します。						
事業実績	延べ人数 (実人数)	令和3年度 (168日)	大淀①	大淀②	大淀③	上御糸 下御糸	合計人数 2,099 (168)
			337 (21)	200 (21)	176 (21)	81 (21)	
			いつき	勝見	明星①	明星②	
			380 (21)	318 (21)	310 (20)	297 (22)	
	(開催日数)	令和2年度 (127日)	大淀①	大淀②	大淀③	上御糸 下御糸	1,814 (149)
			292 (21)	266 (16)	94 (15)	139 (11)	
			いつき	勝見	明星①	明星②	
			268 (21)	290 (26)	240 (20)	225 (19)	
	年齢 (歳)	/	65～74	75～79	80～84	85以上	合計人数
			令和3年度	3	17	53	50
令和2年度			3	29	52	55	139
事業評価	●新型コロナウイルスの影響で、予定日程192回のうち24回が中止となりました。 中止期間中、脳トレプリント等・自宅での運動の方法の配布を行いました。また不安のある方や体調に注意が必要な方へは訪問し状態把握や参加者・ご家族の不安の軽減に努						

	<p>めました。感染対策として昨年より取り組んでいる体温測定記録表への記入の習慣化が出来、体調管理に役立てることができています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●新規参加申込者について利用者からの紹介による新規利用者が8名。中止者24名については長期欠席による体力低下や、入院や病気の悪化により介護保険事業所へ移行された方が多くみえました。 ●運動指導について、「体を動かすことを楽しむ」をテーマに認知症予防となる二重課題や道具を使用した運動を取り入れ楽しんでもらうことができました。また毎回、ラジオ体操や棒体操など自宅でも出来る運動プログラムを職員が実施し運動の習慣に取り組むことができました。体力測定では理学療法士からの一言や、アドバイスをいただきました。今年度も感染対策から参加者同士がコミュニケーションをとる体操は取り入れる事ができませんでした。 ●口腔衛生指導では、口腔機能低下症、口腔体操についても学びました。2回の教室の事前事後に口腔機能低下についてアンケートを実施し、口腔状態の把握ができました。またアンケートへ口腔に関する疑問を記入してもらうことで口頭では聞けないことを質問することができました。 ●栄養指導では、感染症に負けない免疫力やフレイル予防、塩分について学びました。調理実演は中止し、簡単な調理方法の動画やレシピを配布して自宅で作った感想を教えるもらうなどの工夫をしました。 ●音楽療法では認知症予防となる二重課題を多く取り入れました。音楽に合わせて体を動かす、様々な楽器を使用するなど楽しみながら取り組むことができました。楽器を使用することで大声を出すことなく周りとのコミュニケーションをとることができました。 ●脳トレ問題を宿題として教室の最初に答え合わせを行う時間を取りいれました。参加者同士で答え合わせをすることもあり、参加者同士の良い刺激となっていました。 ●その他、創作活動では切り絵、ペットボトルでのプリン洗剤作り、各種ボランティアの方々も感染対策へ協力いただき、楽しく教室を進めることができました。
<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●外出の機会や交流の場が減少しています。感染症対策を行いながら参加者同士や地域の方とコミュニケーションを取るプログラムを作っていきます。 ●参加者自身が機能向上、意欲向上を実感できるプログラムを作っていきます。 ●会場によって、参加者の数、年齢に幅があるため、その会場の参加者にあった内容のプログラムを作っていきます。参加者の高齢化により視力・聴力の低下があります。参加者の機能に合わせたプログラムを作る必要があります。 ●参加者の中には介護保険事業とえんがわ教室（介護予防）の境界線上の方もおり、えんがわ教室への参加を続けるか、介護保険への移行をすすめるかという判断が必要です。 ●参加者の高齢化に伴い送迎が必要な参加者が増えています。現在2便の送迎を行っていますが、今後送迎が必要な参加者が新規利用を希望された場合、送迎をどうするか検討が必要です。

10-②. 筋力脳力あつぷ教室

事業目的	生活機能向上を目的に「運動器の機能向上」、「栄養改善」、「口腔機能向上」、「脳トレーニング」を中心に専門職による指導や支援を実施し、生活機能維持向上していくことを目的とする。少し機能が低下しても早期対応にてサービスを利用していき、心身の機能維持向上をしていくことを目的としています。					
事業実績		開催日数	延べ人数（実人数）			
			男性	女性	合計	サポーター数
	令和3年度	161日	577 (178)	2,023 (616)	2,600 (794)	623 (229)
	令和2年度	91日	441 (154)	1,571 (538)	2,012 (692)	465 (179)
令和元年度	127日	670 (203)	1,543 (458)	2,213 (661)	284 (149)	
事業評価	<p>●まん延防止措置発令等により、各曜日の開催予定が46回のところ、火曜日40回、水曜日40回、木曜日41回、金曜日40回の合計161回開催となりました。</p> <p>●教室休止の期間は、脳トレのプリントをご自宅へ送付し、取り組む事で心身機能の向上を図っていただきました。また教室休止中のご利用者様には、電話で心身状況の把握も行いました。</p> <p>【筋力あつぷ】</p> <p>●教室休止後は、自宅でも運動を取り組まれた方は体力維持できており、運動の取り組みが少なかった方は、体力の低下気味の傾向がありましたが、教室再開後は、徐々に体力が回復されています。</p> <p>●職員によるスタッフ体操にも皆さん慣れていただき、時間どおり進める事ができています。</p> <p>●要介護認定された方3名の方と要支援認定1名の方がリハビリデイ（デイサービス）へ移行となりました。</p> <p>●教室への参加を継続することで、運動や散歩を習慣化し、ご自宅でも身体機能維持に取り組むことができきています。</p> <p>【脳力あつぷ】</p> <p>《栄養指導》</p> <p>●講義1週間前に10品目食品チェックをする事により、バランスよく食べることを習慣づける事ができました。</p> <p>《口腔指導》</p> <p>●歯科受診を定期的に行っていない方や、口腔指導を初めて受講された方には新しい知識を吸収する機会となりました。日常的に継続してお口の体操を行う利用者が増えました。</p>					

	<p>《音読・計算・数字盤》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●参加者は概ね、時間を意識して取り組んでいます。おしゃべりも控え、真剣に取り組めました。普段からマスクをする期間が長期化し、声を出す習慣が減っているの で、利用者の方からも音読は好評でした。 <p>《脳トレプリント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●教室の休止中は脳トレプリントを郵送したり、配布する事で、休止中の機能維持に活用していただきました。プリントについては、内容についての意見もありますが、 自宅では楽しみながら行なわれており、友人や家族間の交流にも繋がりました。 教室中も皆さん頭をひねりながら、周囲の人と一緒に答えを考えていらっしやいます。 <p>《レクリエーション・交流》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍で、交流に制限はありますが、クオリティ（輪投げ）やハンドベル鑑賞、 利用者の作品を壁面に飾ったり、グループトークを行ったりと単調にならないよう工夫しました。レクリエーションや交流を求める声は多く聞かれる傾向があります。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ●職員によるスタッフ体操が4年度は増える為、PTからのアドバイスを参考に、工夫して行なっていきます。 ●免許返納の方が増えていく傾向があり、送迎対応を検討する必要があります。 ●教室時間中、時折体調不良になる方がみえ、サポーターと共に見守りを強化していきます。 ●利用者の体方面、認知面の低下を認めた場合は、各担当各部署につなげ、よりよい支援ができるよう努めていきます。 ●コロナ禍が終息してきた時には、レクリエーションや交流を増やして、笑顔がさらに増える教室をめざしていきます。

11. 地域生活支援事業（障害者総合支援法）

11-①. 手話奉仕員養成研修事業

事業目的	手話を第二言語として自然な形で習得できる指導方法（直接教授法「ナチュラル・アプローチ」）を用いて奉仕員を養成し、聴覚障がい者などへの理解を深めるとともに、明和手話サークルと協働し、聴覚障がい者の社会参加を援助する人材の育成を目的としています。	
事業実績	令和3年度	<p>基礎課程</p> <p>開催日数：全29回</p> <p>名簿登録者人数：9名</p> <p>8割以上の講座受講者：7名</p>

	令和2年度	<p>入門課程</p> <p>開催日数：全23回</p> <p>名簿登録者人数：14名</p> <p>8割以上の講座受講者：8名（12名基礎課程受講へ）</p>
事業評価		<ul style="list-style-type: none"> ●入門課程から、基礎課程へ移行した受講者が家庭の事情や手話技術のレベルについていけなくなり、受講者が減少していく傾向があります。 ●昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染防止の為、受講生と講師の距離をとった実技にはなりましたが、飛散防止フィルムは設置しない形での指導であったので、昨年度より受講生、講師共に実施しやすい講座となりました。 ●新型コロナウイルス感染拡大への対策として、例年より講座開始時期を早め、4月から続けて開催した事で、切れ目なくカリキュラムを進める事ができ、受講生も手話の習得がスムーズになるという効果もありました。 ●コロナ禍で昨年と同様一定期間休講する事になりましたが、休講時も動画等を活用する事で、家庭で学習の機会を継続することができました。 ●新型コロナウイルス感染拡大により、2期では実施された地域の聾者との交流会が実施されず、普段の生活の中での聾者との触れ合いの場が持たず、受講生の学びの機会が減少してしまいました。
今後の課題		<ul style="list-style-type: none"> ●入門・基礎課程後のステップアップ講座を5年度実施予定ですが、受講生にとって1年間のブランクは大きいと感じています。講座の卒業生が交流できる機会を新たに創出し、学びの継続へつなげる働きかけが必要です。 ●講座の卒業生が、卒業後も聾者と地域の中で触れ合っていけるように、聾者のイベント等を紹介したり、聾者を交えたイベントを企画して卒業生を担い手となっただけのような企画を検討する必要があります。